

# 令和2年度 学校園評価(学校関係者評価)シート

(様式2)

|     |            |
|-----|------------|
| 学校名 | 加古川市立若宮小学校 |
|-----|------------|

1 学校教育目標 すこやかで、創造的に生きようとする児童の育成 ー進んで学ぶ子・仲よく助け合う子・最後までやりぬく子・元気ががんばる子ー

2 学校基本方針  
 ①主体的に生きる力を育てる教育活動の実践  
 ②心豊かな児童の育成  
 ③自主性、根気強さ、自立心の育成  
 ④自らきたえる、たくましい心身の育成  
 ⑤信頼される教師としての資質向上  
 ⑥家庭、地域との連携

3 志向する学校運営  
 ①児童にとって ・学校は「未来を生きる礎を学ぶ場」であること  
 ②保護者にとって ・学校は「安定・安心・安全な信頼できる場」であること  
 ③教職員にとって ・学校は「働きがいを感じられる場」であること  
 ④地域にとって ・学校は「まちづくりの拠点となる場」であること

評価基準

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない E:わからない

※評価項目を評価願います。

| 重点目標             | 評価項目  | 達成状況 | 改善の方策   | 自己評価の適切さ(学校関係者評価)   | 達成状況 |
|------------------|---|------|---|---|------|
| 基礎的、基本的な内容の確実な定着 | ・新出漢字や音読を20分間の学習タイムで行った。<br>・市で導入した「みんなの学習クラブ」の「iプリ」を使うことで基礎基本の定着を図った。  | B    | ・新しく導入されるchromebookを活用し、自宅学習や自ら取り組む学習の充実を図る。  | ○楽しく学習出来ている様子がうかがえ、良かった。<br>○学習タイムや新しいプリントのシステムを利用して、基礎的な学習時間の確保ができています。<br>○短い時間も大切に使うなど学校の工夫ややる気が伝わってくる。  | B    |
| 心を育てる人権教育の推進     | ・通常の授業に加え、わかみや人権週間を設け、学校全体で人権に関する授業や取組を重点的に行った。<br>・6年生では、わかみや人権週間に加え、さらにふみ込んだ学習を行った。   | A    | ・これまでの取組に加え、LGBTQ+など多様性を認め合う社会の実現に向けた学習や実践を行う。  | ○授業時間の確保に努め、人権学習を行う取組はすばらしい。<br>○心を育てることはとても大切なことで、親としてもどう伝えていくべきなのか迷うことも多くあるので、学校での取組はありがたい。   | A    |
| 基本的な生活習慣の確立      | ・新しい生活様式への対応として、手洗いうがい・マスク着用の徹底に努めた。<br>・運動や睡眠、バランスの良い食事などの大切さについて適宜指導を行った。<br>・気持ちのよいあいさつをする。時間を守る。掃除にしっかり取り組む。など基本的な生活習慣の充実に努めた。  | A    | ・教師が模範となり指導することに加え、子どもたち同士で呼びかけ意識を高めあえるようにする。   | ○子どもが、家でもしっかり手洗いうがいをを行うようになった。<br>○学校の指導のおかげで、自宅でも習慣となり、親の私たちも学ぶことが多々あり助かっている。  | A    |
| 教育相談の充実          | ・学校生活適応感尺度(アセス)アンケートを用いて、児童の困り感、満足感などの内面理解に努めた。<br>・学年間、学校間で日常的にかつ定期的に情報共有を図った。<br>・どの先生にも手紙を出せる「わかみやポスト」を設置し、児童が担任以外の教職員にも手紙で相談やメッセージを送ることができるようにした。   | A    | ・これまでの取組をさらに充実させるとともに、担任以外にも相談できる体制づくりをすすめる。  | ○子どもの内面についてのアンケート等を活用した取組がどの程度教育相談につながっているか、これからも続けていってほしい。<br>○『わかみやポスト』は素晴らしい。気軽に話せる先生が増えることで、学校に行くことがさらに楽しくなる。毎日、学校で過ごす子どもにとっては、心の育ちの面でもとても大切なことだ。 | A    |
| 健康教育の推進          | ・わかみやつこぶろぐ内に給食日誌を設けることで、児童や保護者への食育啓発の充実を図った。<br>・新しい生活様式への指導に加え、飛沫飛散防止板、自動ソープディスペンサー、サーモカメラなどを設置し、児童の意識や行動の向上を図った。<br>・接触や密になる運動の制限も考慮し、なわとび検定に力をいれて体力の向上に努めた。<br>・エアロビクスプロとつながりを持ち、若宮小学校オリジナルのエアロビクスを作成し、接触のない運動を日常的に行えるようにした。 | A    | ・コロナ禍が収束した後も、感染症予防として有効な取組を継続する。  | ○コロナ対策がインフルエンザ対策にもつながり、健康な生活につながっている。運動に対しても、もっとたくさん取り組んでいただきたい。<br>○大切なことの見直しが出来ており、学校生活が以前よりも良いものになるなど、今後につながるとも良い取組である。                            | A    |
| 情報教育の推進          | ・SNS使用に関する情報モラル教育の必要性が高まっている中、2学期に「インターネットトラブル防止講座」を全校児童対象に行い、モラル向上を図った。  | B    | ・chromebookの使用に対応できるように、4月中に、第1回目の「インターネットトラブル防止講座」を持つとともに、児童会が主体となってマナーやルールづくりを行わせる。<br>・プログラミング教育を推進する。 | ○インターネットトラブル防止講座は、子どもがマナーを学ぶのによい機会になった。<br>○教員の意欲が子どもたちに及ぼす影響は大きい。子どもたちに学習を進めていかなければならない教員の姿勢が大切。   | A    |
| 開かれた学校づくり        | ・学校運営協議会(CS)の議事録内容について、39メールやHPで広く知らせることができた。<br>・学校内の教職員の諸研究に関するリーフレットを作成し、保護者だけでなく、地域へも回覧や配布を行うことで、周知を図った。  | B    | ・HPや39メールを活用した情報発信とともに、新型コロナウイルス感染症の終息後は、実際に学校や子どもたちの様子を見ていただいたり、学校運営に参画していただいたりする機会を充実させる。               | ○39メールで、いつもわかりやすく情報を確認できるようになった。子どもの様子がよくわかるようになった。<br>○手軽に今まで以上の情報を見ることができて働いている保護者の方も幅広く知ることが出来て良い。   | A    |